

1 単元名 つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう
「友情のかべ新聞」

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い語彙を豊かにしている。 つながりを見つけながら読み、読み方をポップづくりで生かしている。	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移りわりと結び付けながら想像して読み、学習の見通しをもって、おもしろいとおもったことを伝え合おうとしている。

3 教材のとらえ

本教材は、謎が生まれ、謎が解き明かされる「ミステリー」作品である。読者が謎解きを楽しめるような言葉のしかけが随所に散りばめており、児童も「なぜだろう?」「どうしてだろう?」と登場人物と一緒に謎を解明できる作品となっている。この作品の大きな特徴としてあげられるのが、登場人物である「ぼく」の一人称の視点で物語が語られているというところである。一人称の視点では、語り手である「ぼく」の考えたことや感じたことが直接的に表現されているので「ぼく」の内面はよくわかり、そのため児童は、「ぼく」と同化して物語と一緒に読み進めているような感覚となる。「ぼく」が何をヒントにして推理をしたのかを読みとくことで、場面と場面を結びつけさせたい。また、そのための前段階として、登場人物の人物像とともに、1週間でなにが起きたのか、その時の人物の様子なども時系列で読み取らせ、表にまとめておきたい。

本時は、「東君と西君は、本当に仲良くなったのか」「関係がよくなったのはいつからか」という二人の心情の変化について考える。この物語は、「ぼく」の視点で描かれているため、西君、東君の心情の直接的な描写は、ほとんどないが、二人の行動描写に注目させ、心情の変化を読み取らせたい。



6 本時の指導案

本時の目標 二人の関係の変化を具体的な叙述をともに読み取り、「問い」について自分の考えを持ち、表現することができる。

本時の学習

学習活動	教師の支援
1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の問いを確認する。 東君と西君は、本当に仲良くなったのかな。 ・ 友達の考えを知る。 ・ 席に戻り、自分の考えを再考する。 3 全体で問いについて話し合う 仲良くなった ・ 相手をほめたり、自分のおすすめの本を教えたりしている。関係がよくなっている証拠。 ・ 中井先生が二人の様子を見て、「先生の作戦は、大成功だな」と言っている。クラスみんなもそれに対してうなずいているから関係はよくなっている。 ・ 最後にできた新聞に注目すると、二人の好きな色でふちどりがされている。最初の新聞は、青だけだった。 仲良くなっていない ・ 「ぼく」の推理だから、仲良くなっていないと思う。 ・ 正反対の性格なのにいきなり仲良くなるはずがない。 ・ 最後まで二人は反対のことを言っている。 ・ はっきりと仲良くなったとは言えないけど、関係が良くなっているのは、確かだと思う。 二人の関係がよかったのは、何曜日からだろう。 ・ 水曜日までは、お互いに監視している感じがするけど、金曜日は、顔を寄せて話し合っているから金曜日かな。 ・ 木曜日には、東君は西君をサッカーで認めている。 ・ 一緒に過ごす時間が多くなってお互いの良いところがわかったんだね。 5 今日の学習の振り返りをする。	前時までの学習を掲示しておき、これまでの学習を想起しやすくする。 前時に問いに対する自分の考えを持たせておく。 教室を自由に歩き周り、友達と自分の考えを交流する。その際にいいなと思った意見等は、メモをさせる。 事前にネームプレートを貼って自分の考えを表明させておく。 必要に応じて、意図的指名を行い二人の関係がよいほうに変化していることに気づくことができるようにする。 【思考・判断・表現】 叙述をもとに二人の関係の変化を捉えることができる。(発言・ノート) 関係はよくなっている＝心情の変化を捉えさせる。行動描写に注目させ、気持ちの変化を読み取らせる。 振り返りの視点を掲示する。 ① 自分 ②友達 ③授業の感想